一般質問

定例会では、提案された議案に関係なく、市長や関係する理事者に対し、市政全般にわたり質問することができます。
これを「一般質問」といい、九月定例会では四人の議員が一般質問を行いました。（本稿は、質問した議員がそれぞれ一千字程度にまとめたものです。詳しい内容は、図書館等で会議録を閲覧いただくか、インターネットでもご覧いただくことができます。）

支所機能の充実について

議員　合併後四年がたち、職員数も、西吉野支所は三十四人から十五人に、大塔支所は二十三人から十四人になっている。
　市長は「災害時、緊急時の初動体制は、支所の職員を中心に管内を熟知している旧村の職員等で体制がとれるように検討したい」と答弁しているが、支所機能の縮小は地域の危機管理機能の低下ととらえることができる。市の考えはどうか。

市長　五條市はへき地、山間部が多く点在しており、いったん災害が発生すると大変だと認識はしている。自主防災組織を通じて防災への関心を啓発し、自助、共助、公助を習得していただきたい。
　災害の発生時間や規模に応じて速やかに対応ができるよう、職員間・関係機関・地元住民との連携を密にしていきたいと考えている。

議員　道路網の崩壊や通信機能の麻ひにより陸の孤島になりかねない。
　農林課を支所に設置するなどすれば、災害時でも対応できるのではないか。

市長　災害のことも十分考慮して、私の権限でやっている。

市立五條東中学校校舎棟耐震補強工事について

議員　市は、五條東中学校耐震補強工事の入札を六月二十九日に公告し、七月七日の段階で訂正したが、市建設等請負業者選定審議会を開かず副市長一人で判断したと聞いている。

副市長　入札公告をいったん中止し、公告内容を変更すべきであったが、夏休み期間中に便所の改修工事に着手し、完了する必要があったため、工事の中止による変更はできなかった。

議員　この訂正により参加できる業者の幅を狭めたことになる。また、納得できないということで、県建設業協会五條支部から撤回を求める意見書も出てきた。

副市長　結果的に一社になった。

議員　七月十四日の建設経済常任委員会で副市長が「県と土木と相談してこういう形にした」と答弁したが、私が県に電話して聞いたところ、「新聞に問題が載ってから相談を受けた」との答えであった。
　本当に五條市を正常化しようとするのならば、法に基づき、だれもが理解できるような行政をしなくてはならないのではないか。

一見五丁目のし尿処理施設整備計画について

議員　市長はこの計画をなぜ急いでやろうとしているのか、理解ができない。
　これが議会に出てきたのは平成二十一年五月二十九日午後三時からの厚生常任委員会で、初めて計画が出てきた。そのとき私は、地元の議員としての立場と地元のいろんな意見を説明した。そのときに、「し尿を流域下水道に直接流すことができないか、検討していただきたい。」と提案し、生活環境課長は、「流域下水道へ投入する件は事業費の軽減の手だてともなるので、一番市の持ち出しの少ない方法を検討して提案したいと考えております。」ということだったのに、市長は二箇月もたたない七月二十五日に二見地区連合自治会へ説明した。
　八月に市長と秋本県議が来たが、地元では、市長は説明に来たのと違う、脅しに来たと言っている。なぜ急ぐのか。

市長　早急な計画決定と地域の説明、協力が必要となる。四箇所での説明会を終え、ご理解いただき、おおむね現在の場所での建て替えを了承いただいている。

議員　市長は口癖に、「改革」「借金をしたら駄目だ」「子や孫のために」と、いい文句を言っているが、やっていることが全然違う。下水道に直接投入するようになったら建てることは要らない。市長は、吉野町、大淀町、下市町に、市長になってから「ここのし尿は全部五條市でとってやる」と言っている。なぜなのか。

五條市民の健康と医療について

議員　市民の医療について、市長はどのように考えているのか。

市長　緊急医療体制は十分とは言い難い現状で、県の対策も早急な解決には結びついていない。

議員　五條市には幸い県立五條病院があるが、病院経営は大変だろうと思う。
　五條病院の病院長に出会って話を聞くと、現在医師は二十一名しかおらず、産婦人科は木曜日一日だけの診察で、小児科の医師も一人ということであった。
　小児科は二人要るし、婦人科も一人は置いていただきたい。これは、市を挙げて真剣に考えないといけない。
　まさかの場合、救急車で運んでもらい、一分、一秒でも早く診てもらうことが原則である。
　五條病院だけで小児科の医師を昼も夜も二人ずつ置くのは無理だと思うが、大淀病院、吉野病院、済生会御所病院や医大ともよく相談していただき、小児科に限らず、どこへ行ったらすぐに診てくれるということを、行政として是非検討していただきたい。

「五條病院の充実」について

議員　五條病院には現在「産科」がない。市長はこの現状をどのように考えているのか。
　また、産科の再開について積極的に取り組んだのか。

市長　五條病院の充実は市民のためには非常に重要であり、今後も県に対しての要望を継続し、優先的に五條病院への医師の確保を働きかけていく所存である。

議員　市長は、五條病院の産科の再開について、具体的にどのように取り組んだのか。

市長　機会あるごとに各関係・県議も含めてお願いをした。

議員　五條で子供を産み、育てるよい環境をつくり、若い世代に五條市に定住してもらい、人口を増やし、財政難の五條市に将来税金を納めていただく取組こそが、金剛山にトンネルを通すことよりも大切な、市長として力を入れて取り組んでいかなければならないことだと思う。
　議員活動を通じて得た市民の一番多くの声は、五條病院に産科を復活させ、五條病院を充実させてほしいという声である。市民の切実な声、市長の耳に聞こえてきているか。

市長　聞こえている。

議員　五條病院の産科を再開させることは、行政、市長が最優先で取り組まなければならないことだと思うが。

市長　それも大切であるが、もっと他にも大事なことはいっぱいある。いろいろい